

遊びや場面		園外散歩 (交通ルールを守りながら)		知識及び技能の基礎				思考力、判断力、表現力等の基礎				学びに向かう力、人間性等				
接続期までの遊びや学びのプロセス				日常生活に必要な交通ルールを知る。		横断歩道を渡る時、信号機の色を見て保育者の問い掛けにどのように行動すればよいか考える。				地域の人に保育者と一緒に挨拶をし、応えてもらうことで、満足感を味わう。 ルールを守って楽しく安心して生活したり、安全に散歩をしたりしようとする。						
0歳	戸外に連れて行ってもらうことを喜ぶ。			【接続期】 5歳児後半	幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	健康	自立心	協同性	道徳性	社会生活	言葉	思考力	自然	数量・図形	感性と表現	
1歳	探索活動が活発になる。				◎			◎	○	◎	○					
遊びや学びのプロセス																
2歳	安心できる大人と手をつないで散歩をしたり、安全に移動したりするようになる。															
3歳	道の歩き方などを大人と一緒に行動することで知る。															
環境・援助のポイント					必要なルールを一緒に考え自ら守ろうとする姿を育む。(手を挙げて渡る、歩道からはみ出ない、順番を守るなど) 周囲の状況が安全であるか確認するように繰り返し声を掛けていく。											
4歳	信号機や標識の意味や道路の歩き方などの交通ルールが分かり、守ろうとする。															
5歳前半	交通ルールが分かり気を付けて行動するようになる。															
小学校のスタートカリキュラム					生活科「つうがくろをあるこう」 学校行事：交通安全教室											



幼児教育と小学校教育が

つながるって
どういうこと？



第2章

各教科等における
学びのつながり

授業展開例



生活科

担当者からのメッセージ

お話し 小田原女子大学附属幼稚園 佐藤 寛子先生 / 小田原市総合教育センターがはつてセンター 山城 祥二先生

生活科の特徴

生活科は、具体的な体験や活動を通して「生活に関わる見方・考え方」を身につけながら、能力を育む教科です。

幼児期から遊びの中で身近な人や自然、社会との触れ合いを通して豊かな感性を育み、小学校以降では体験活動と表現活動の相互作用が期待されています。また、学習指導要領改訂以降では、この領域においては生活科を中心とした総合的・関連的な指導を重視します。幼児教育を通して生まれる学びの芽を小学校教育の学びの基盤に育てていくという意図が大切です。

幼児期の遊びを通して育まれた「感じる」「気付く」「繰り返す」「つなぐ」「つなぐ」といった学習の力が、生活科を通じて

